

海外銅は弱横ばい

市中底値見えず不安広がる

非鉄原料

関東地区の非鉄金属リサイクル原料市場は、伸銅向け銅・黄銅系原料が横這い推移。

海外LMEは十六日入電のセツルメントで三〇七五ドルまで上げ戻し、二〇〇〇ドル台を脱した。NY現物は再び一三〇セント台まで下落。一時的とはいえLMEが二〇〇〇ドル台に突入したことで、取扱筋でも底値が見えない状況に不安が広がっている。しかし、十二月に入ってから中国向け雑品も少しずつ動き始めて



レーガノミックス終焉

原料業界への影響を考える①

米国の経済政策は次期大統領のオバマ氏の下で、レーガノミックスからニューディールへ大きく舵を切ろうとしている。世界経済を引っ張る米国の方向転換は今後、原料業界へどのような影響を及ぼすのか。橋本金属取締役の橋本健一郎氏が二回にわたって解説する。

「八一年以降レーガン大統領率いる米国のレーガノミックスのもと（クリントン大統領の間は例外か？）規制緩和、企業減税、金融自由化、経済のグローバル化などを経て〇七年頃まで世界のGDP合計の約三・二倍にあ

たる一五〇兆ドル（二京六〇〇兆円）のマネーが世界を駆け巡り世界経済は拡大してきた（※グラフ参照）。



圧迫的な力を持つドルを背景に投資家はIT事業に注目し、次々に現れるベンチャー企業へ投資し市場は拡大するが、金利上昇をきっかけに株価は急落、ITバブルは弾けてしまった。次に投資家が目を付けたのは不動産であったが、ご承知のとおり不動産価格上昇を前提とした無理なサブプライムモーゲージは不動産価格のピークアウトを皮切りに次々デフォルト

(2007年)		
名目GDP順位(億ドル)		
1	米国	138,112
2	日本	43,767
3	ドイツ	32,972
4	中国	32,801
5	英国	27,278
6	フランス	25,623
7	イタリア	21,075
8	スペイン	14,292
9	カナダ	13,264
10	ブラジル	13,142
11	ロシア	12,910
12	インド	11,710
13	韓国	9,698
14	メキシコ	8,934
15	豪州	8,217
16	オランダ	7,542
17	トルコ	6,571
18	ベルギー	4,486
19	スウェーデン	4,444
20	インドネシア	4,328

ト・デフォルト・スワップ）までデフォルトが発生した。米景気後退は世界景気後退まで広がり、需要減観測から今度は全てのコモディティが二分の一から七分の一まで暴落した。

FRBや財務省が金利引き下げや公的資金注入を行っているが景気後退を止めることができていないことや、FRBのマエストロ（巨匠）といわれたグリーンズパン前議長でさえ「二〇〇年に一度の津波」「自由すぎるマーケット主義は誤りであった」とも発言していることを考えると、レーガノミックスから始まり約二〇年続いた『金融至上主義』は終焉を迎えている。